

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住吉区
学校名	大阪市立墨江小学校
学校長名	酒井美幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・墨江小学校では、第6学年 69名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○教科に関する調査では、国語A(知識)・国語B(活用)・算数A(知識)・算数B(活用)のすべてにおいて、その平均正答率が全国より2~3%、大阪市より5~7%上回った。無答率が低いのも好影響を与えている。特に、算数A(知識)では、無答はなかった。課題としては、「考えたわけを書く」「求め方を書く」「きまりを書く」といった記述式の回答でやや正答率が低くなっているが、無答率が逆にやや高くなっていることが挙げられる。

○質問紙調査からは、特に、「きまりを守ろう」とする規範意識が高く、「友だちとの約束を守る」、「人が困っている時は助ける」、「いじめはどんな理由があってもいけない」とする回答率が高いことが伺われる。また、自分の考えを発表することが得意とする回答率も高い。しかし、将来の夢や目標を持つことについては、全国平均に比べやや消極的な傾向が見られる。また、授業の復習についても「している」という回答は低い。例年、課題に挙がる自尊感情については、全国平均とほぼ同じ回答傾向であり、特に、低いことはなかった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 漢字の読み書きについては8割~9割の正答率であり、ほぼ定着している。朝のチャレンジタイム等を利用した基礎・基本の学習の積み重ねが徐々に成果として表れてきているといえる。しかし、「内容の中心を明確にして書く」「話し合いで出された意見を基にして書く」「目的や意図に応じ、引用して書く」「必要な内容を整理して書く」など、記述式で回答する設問で全国平均の正答率を下回っていることから、「書く」活動に重点を置いた指導が今後の課題として挙げられる。

[算数] 領域別にみると「量と測定」、中でも「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係」を問う設問でつまずきが多くみられ、全国の平均正答率を9%下回った。国語と同様、算数においても記述式で回答する設問については、いずれも50%以下の低い正答率だったことから、「書くこと」に対する抵抗感をなくしていくための指導をあらゆる場面で取り組んでいく必要がある。

質問紙調査より

○「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意」「家の人と学校での出来事について話をする」の質問項目についての肯定的な回答は、いずれも全国平均を上回る結果であった。また、「学校のきまりを守っていますか」「友だちとの約束を守っていますか」といった「きまり・約束」についても守ろうとする意識も高く、肯定的な回答が全国・大阪市平均を上回った。さらに、「いじめはあってはならないこと」「困っている人は助ける」といった意識も高い。

○自尊感情を問う「自分にはよいところがある」という質問項目については、ここ数年肯定的な回答が全国・大阪市平均を下回っていたが、今年度は全国平均とほぼ同じ回答傾向だった。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問項目については、やや消極的な結果になっている。また、「授業の復習」についても、肯定的な回答が全国平均の53.8%に対して本校は34.3%に留まった。

今後の取組

○「書く力」の育成に努める・・・国語と算数のいずれにも共通する課題は「書く力」であり、これはここ数年続けて挙げられている課題である。あらゆる授業の中で課題解決に向けての自分の考え方やふり返り等をノートに書く習慣を定着させるなど、「書くこと」に対する抵抗感をなくしていく取り組みが望まれる。

○家庭学習の定着を図る・・・家で計画的に勉強し、宿題もしっかりとできているという傾向が見られる一方、「予習・復習」に関する質問項目で、肯定的な回答が全国平均を下回っている。特に、「学校の授業の復習をしていますか」の質問については、肯定的な回答が全国平均を約20%も下回った。日々の学習内容を定着させていく上でも特に、復習の大切さを意識させるとともに、自分で考えた課題にも取り組めるよう家庭と連携しながら声かけをしていく。